

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

#### 【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	はしご車の梯体縮梯時に手を挟まれそうになった。
3. 体験した事例の中心的要素	はしご車のバスケットを離脱し、隊員1名が先端搭乗の状態で庁舎屋上への架梯救出訓練を実施撤収中、先端搭乗員をGLに降ろす際、はしご基部操作員が誤って縮梯操作を行ったところ隊員の手と自確用ロープがはしごの5連目と4連目の間に挟まれそうになった。
4. 体験した事例の原因・理由	先端搭乗時に、誤って縮梯操作を行ってしまったこと。

#### 【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。行動の実行に問題があった。
------------------	------------------------------

#### 【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 21 年 1 月 18 日 午後 2 時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋外：消防庁舎前、G Lから 2 m付近
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [ 火災、 ]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	その他：中高層火災想定、はしご車梯体を使用した避難誘導訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

#### 10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[ 32 ]歳、 勤続年数[ 13 ]年、 現場経験年数[ 13 ] 年、 階級[ 消防士長 ]、 同様の活動 [ 初めて ]、 任務 [ 機関員 ]
○当事者 B	年齢[ 23 ]歳、 勤続年数[ 6 ]年、 現場経験年数[ 6 ]年、 階級[ 消防士 ]、 同様の活動 [ 初めて ]、 任務 [ その他 : 先端搭乗隊員 ]
○当事者 C	年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、 同様の活動 [ ]、 任務 [ ]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

## 1.1. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A	はしご基部操作で梯体を建物屋上から離梯	
経過 2	当事者 B	笛で合図	
経過 3	当事者 A	はしご旋回操作をしながら伏梯操作	
経過 4	当事者 B	笛で合図	
経過 5	当事者 A	GL に降ろそうとした時に縮梯を行った	
経過 6	当事者 B	笛で危険の合図と口頭で停止をかける	
経過 7	当事者 A	基部操作を一時中断	
経過 8	当事者 B	危険位置から回避するよう指示	
経過 9	当事者 A	危険位置から回避するためはしごの伸梯	
経過 10	当事者 B	安全位置の確認をし、再度伏梯の指示	

#### 【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

### ○事故の場合

：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力があつた。資機材の操作がうまくいった。他隊(冒)から適切な注意を受けた。

## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 いいえ
  - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 いいえ
  - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 いいえ

#### b 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
  - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
  - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

#### ○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

#### ○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

#### ○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

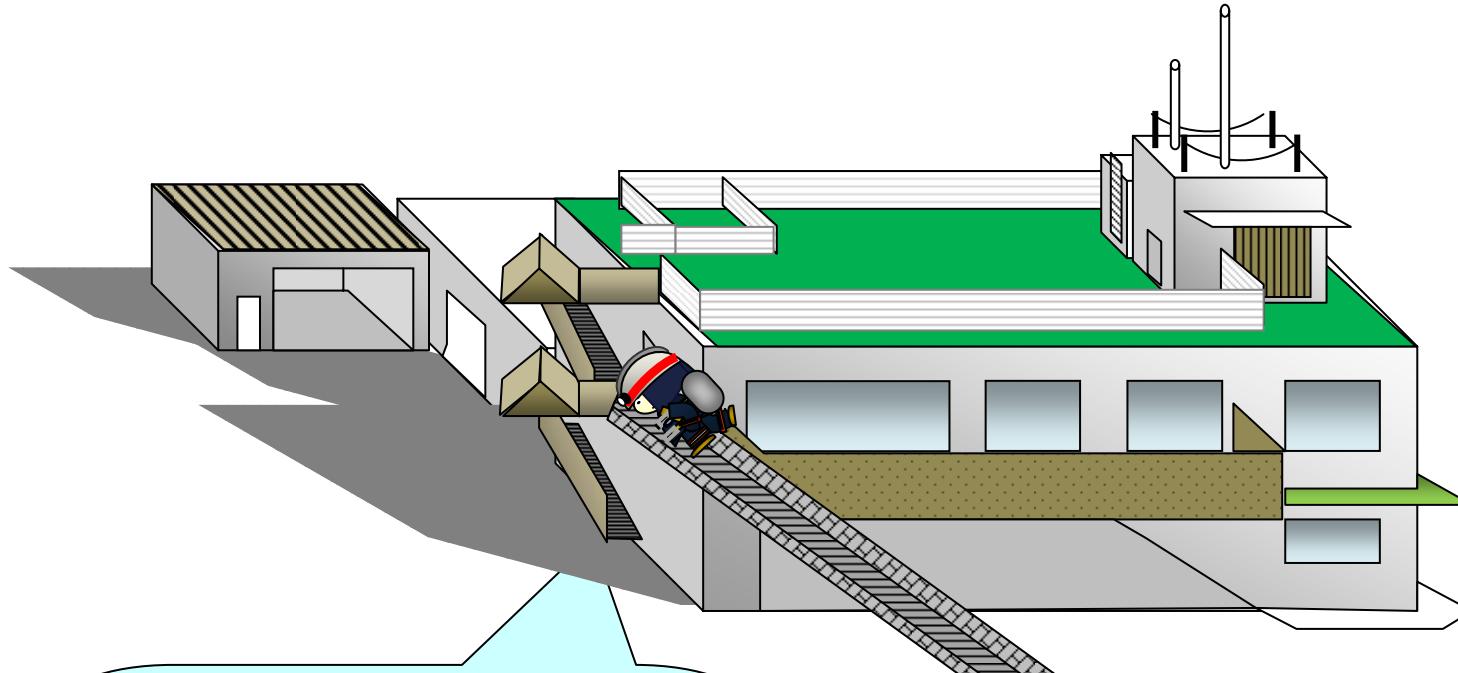
k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

#### ○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ
-----



撤収中、隊員をG Lに降ろす際、はしご基部操作員が誤って縮梯操作を行ってしまい、隊員の手と自確用ロープがはしごの5連目と4連目の間に挟まれそうになった。

